

産婦人科医が知っておくべき 疼痛管理のコツ

企画者のことば

川崎 薫 松村謙臣

産婦人科の医療現場では様々な処置において、疼痛管理が必要となります。また、いうまでもなく経膈分娩は強い痛みを伴うものであり、近年は無痛分娩のニーズが増えています。

疼痛管理の専門家は麻酔科医ですが、産婦人科医自身が疼痛管理を行うことが多くあります。そして無痛分娩を行う際も、麻酔科医がすべて疼痛管理をしてくれる施設は少なく、通常、産婦人科医がある程度は関与する必要があります。したがって、産婦人科医も疼痛管理の具体的な方法について知っておく必要がありますが、産婦人科医が実践できるようにわかりやすく書かれた書籍は少ないという現状があります。

本特集は、疼痛管理の専門家の先生方に具体的かつわかりやすく記載していただき、産婦人科医である読者諸氏が疼痛管理の基本を理解し、日常診療においてみずから安全に疼痛管理を実践できるようになることを目指して企画しました。本特集が、患者さんの苦痛を軽減することで、質の高い産婦人科医療の実現につながれば幸甚です。